

## 第1回大田区立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する検討会 会議録要旨

開催日時：令和5年12月22日（金）午後6時から

開催場所：大田区役所本庁舎 会議室

### 開会・委員紹介

- ・委員長選出までの間、「スポーツ推進課長」が進行
- ・委員の委嘱、紹介

### 区あいさつ

#### 【スポーツ・文化・国際都市部長】

- ・部活動の地域連携・地域移行については、少子化の進行により、学校単位の部活動の存続が困難になってきたこと、また教員の皆様の働き方改革が要因となっている。
- ・国は当初、令和5年から3か年を「改革集中期間」としていたが、体制整備に様々な困難があるということで、「改革推進期間」としてこの3年間で検討するようという状況になった。都心部と地方では課題は違い、23区でもそれぞれ課題が違うということがあり、大田区においても、この間、教育委員会とも充分調整を行いながら、検討会の設置について準備を進めてきた。
- ・大田区としては、地域連携・地域移行をスポーツ・文化の施策をはじめ、学校教育についても、大きく生徒の皆さんのプラスになるように連携をしていき、スポーツ部局としては地域でのスポーツ・文化に触れられる機会の環境の増加に繋げていきたいと考えている。
- ・大田区スポーツ推進計画が令和6年度末で期間終了となるため、次期計画の策定にあたっている。地域連携・地域移行は1つの大きなトピックになるため、この検討会の動向についても注視していきたい。
- ・本日は第1回であり、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思っている。

#### 【教育総務部長】

- ・部活動の地域移行は教育委員会でも最重要課題の一つとしてとらえている。
- ・背景に全国的な人口減少という問題があり、昨年度で言えば全国で80万人が減少しており、このままでは部活動の存続が難しくなっていく自治体が出てくる。
- ・大田区は人口が73万4千人を超え、子どもたちの数は概ね横ばいで、そういった自治体とは違う状況にあるが、子どもたちの教育充実に向けて、教員の働き方改革や子どもたちと向き合う時間の確保、子どもたち本位の教育を実現することが大きな課題であり、部活動の地域移行も含め、ここに取り組んでいかなければならない。
- ・地域によって課題や事情が異なるので、大田区ならではの部活動の地域移行を目指していくことが重要である。困難は様々あると思うが、子どもを真ん中に据えることで、関係者全員が協力し合って解決していけたら良いと思っている。
- ・子どもたちの部活動の充実と教員の働き方改革の実現、地域にとってより良い部活動の移行につなげていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

### 検討会概要説明

#### 【スポーツ推進課長】

- ・本日が初めての検討会のため、まずは検討会の概要について説明する。検討会は、資料1「大田区立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する検討会設置要綱」を基に設置されている。

・資料2は検討会についての概要をお示しした資料になっている。地域連携・地域移行という2つの言葉が使われているが、まず始めにこの言葉の違いについて説明する。

地域連携は、学校教育の一環として行われる部活動において、地域の人材を活用した部活動指導員や外部指導者の導入や、複数校で実施する合同部活動の導入など、学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものとなっている。

一方、地域移行は、地域の多様な団体が学校と連携しながら運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替して生徒の活動機会を確保するものとなっている。

これらの違いを踏まえて今後の検討を進めていければと考えている。

・検討会の目的については、こどもたちのスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保や教員の働き方改革等の観点から、国や東京都の学校部活動の地域連携・地域移行のガイドラインを踏まえ、区、教育委員会、大田区スポーツ協会、大田区文化振興協会、総合型地域スポーツクラブ、学校関係者等を構成団体とした検討会を立ち上げ、検討を進めていくこととなっている。本検討会では、地域の理解を得ながら検討を進めるため、スポーツ・文化団体や学校関係者だけでなく、自治会連合会等の地域団体の皆様にも、委員として入っていただいている。

・検討会委員の任期は、令和5年11月1日から令和8年3月31日までとなっている。

・検討会での検討内容については、「大田区立中学校部活動の取組状況」、「部活動の地域移行を担うスポーツ団体」、「部活動の地域連携・地域移行を担う指導者」、「部活動の地域移行に伴う活動場所」、「その他部活動の地域連携・地域移行に関すること」となっている。

・令和5年度スケジュールについては、本日が第1回検討会、第2回は令和6年3月に開催を予定している。個別の検討事項については、分科会で検討を予定している。

#### 委員長・副委員長の選任（設置要綱第5条第2項）

委員長：学識経験者 野川委員

副委員長：大田区自治会連合会 鈴木委員

大田区立中学校校長会 阿部委員

#### 【委員長】

これより議事に入らせていただく。

はじめに「議事（1）国・都の現状について」事務局から説明をお願いしたい。

#### 【スポーツ推進課長】

・資料4の国のガイドラインでは、少子化が進む中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について示すとともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を示している。

・「Ⅱ 新たな地域クラブ活動」では、学校部活動の維持が困難になる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方が示されている。

・部活動が「学校が主体となって行われ、学校の中で実施されるもの」であることに対し、地域クラブ活動は、「地域が主体となって行われる活動であり、学校だけでなく、公的施設など多様な場所で実施されるもの」とされている。

・主な内容として、地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実を支援することが示されている。具体的には、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、民間事業者など多様なものが想定されている。また、地域のスポーツ団体等と学校との連携を進めていくこと、質の高い指導者の確保、意

欲ある教師の兼職兼業、複数の種目や分野など生徒の志向に適したプログラムの確保、可能な限り低廉な会費を設定することなどが示されている。

・「Ⅲ 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備」では、まずは休日における地域の環境の整備を着実に進め、平日はできるところから取り組んで、休日の取組の進捗状況を検証しながら更なる改革を進めていくこととされている。また、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すことが示されている。

・東京都は、資料5「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を策定し、令和7年度末までに、都内全ての公立中学校等で、地域や学校の実態に応じ、地域連携・移行に向けた取組を実施することを目標としている。東京都の取組としては、部活動検討委員会の開催、関係者への情報発信、都立学校での実証事業の実施、区市町村における地域連携・地域移行に向けた経費の補助などの取り組みを行っている。

・大田区においても、国や東京都のガイドライン等を踏まえ、地域連携・地域移行のあり方を検討していきたいと考えている。

#### 【委員長】

続いて「議事（2）大田区立中学校の部活動の現状について」事務局から説明をお願いしたい。

#### 【学校支援担当課長】

資料6「大田区立中学校部活動一覧（運動部、文化部）について」について説明する。

・項番1「生徒数の推移」について、平成30年度以降、10,700人から11,000人程度で推移している。

・項番2「部活動一覧」について、「令和4年度部活動実施状況調査」より抜粋している。

・運動部は17種目で活動しており、男子部・女子部・男女混合部をあわせて計230部活、これに対して男子が3,454人、女子が2,514人、計5,968人の部員数となっている。部活動数が多い順に、バスケットボール部、バレーボール部・バドミントン部・サッカー部となっている。部員数が多い順に、男子ではバスケットボール部、サッカー部、卓球部、女子ではバドミントン部、バレーボール部、バスケットボール部、男女合計では、バスケットボール部、バドミントン部、卓球部となっている。

・文化部は31種目で活動しており、男子部・女子部・男女混合部をあわせて計161部活、これに対して男子が1,284人、女子が2,150人、計3,434人の部員数となっている。部活動数が多い順に、吹奏楽・ブラスバンド部、美術部、家庭部となっている。部員数が多い順に、男子では吹奏楽・ブラスバンド部、美術部、PC・コンピュータ・ワープロ部、女子では吹奏楽・ブラスバンド部、美術部、家庭部となっている。男女合計では、吹奏楽・ブラスバンド部、美術部、家庭部となっている。

・約9割程度の生徒が部活動に所属しているということが読み取れる。

資料7「大田区の部活動を取り巻く状況について」について説明する。

・「1 部活動の意義」について、部活動は、学校教育の一環として計画される教育活動であり、生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい活動である。

・「2 部活動の活動実態」について、令和5年度現在では、中学校28校で420部活あり、週に4～5日活動する部活動が概ねである。指導等は教員の他、会計年度任用職員である部活動指導員、報償費で措置する校外指導員により担われている。

・平成30年、令和元年に運動部活動と文化部活動の方針をそれぞれ策定し、生徒にとって望ましい

部活動の環境構築に努めている。

・「3 部活動支援制度の現状」について、区では部活動指導員と校外指導員を軸に人的支援を行っている。

(1) 部活動指導員は会計年度任用職員として、教員に代わり部活動指導等全般を行える人材となる。大会への引率等を単独で行うことが可能な人材であり、令和5年度現在、各校1名又は2名として全33名を任用している。

(2) 校外指導員は報償費により各校にて時間単位で依頼する、主に部活動の実技指導等を行う人材となる。部活動指導員とは異なり、大会への引率等を単独で行うことはできない人材だが、週1日～3日の活用をボリュームゾーンに、令和4年度では230人を配置している。

・「4 部活動の地域移行の必要性」について、生徒及び保護者から専門的な指導を求められることへの負担感、学校単位での部活動が継続困難となる可能性、教員の長時間労働やなり手不足の深刻化に伴い、地域クラブ活動化や地域人材の活用などが求められている。

資料8「生徒および教員に対するアンケート調査結果の概要」について説明する。

・この夏、部活動の地域移行に関する対応の方向性を検討するため、2年生・3年生の生徒・その保護者・全中学校教員へ意向調査を実施した。

・「3 生徒の調査結果概要」から以下が読み取れる。部活動に対する需要は、バスケットボール、サッカー、バレーボール等が高い。部活動に対しては、活動自体の楽しさやメンバーとの交流が深まることを重視。自分の学校で活動したいと考える生徒は全体の半数程度を占める。

・「4 教員の調査結果概要」から以下が読み取れる。現在担当している部活動を指導できる教員は約7割程度、専門として部活動を指導できる教員は全体の約4割程度。休日に地域移行後部活動の指導者として関わることは7割が関わりたくないと思っている。

・「5 保護者の調査結果概要」から以下が読み取れる。他校の生徒と合同で部活動を行うことに約半数が肯定的な意見を持つ、学校外の施設で活動することについての積極的な意見は約15%にとどまる、部活動に対して、仲間づくりや体力・知識の習得を求める声が大きいが、教員以外から指導を受ける機会に対して、指導の専門性を重視する傾向が強い。現状の部費で最も多いのはほぼ負担なしを除くと月額1,000円。月謝等として妥当と考える金額は1,000円、2,000円、3,000円と続く。

・事務局において、より細かな分析を引き続き進め、新しい視点での考察や発見等できたら共有する。

#### 【委員長】

続いて「議事(3)大田区の地域資源について」事務局から説明をお願いしたい。

#### 【スポーツ推進課長】

・資料9「大田区の総合型地域スポーツクラブ一覧」に記載のとおり、総合型地域スポーツクラブとは、「地域住民による運営のもと、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、様々なスポーツに触れる機会を提供する地域密着型スポーツクラブ」であり、現在、大田区では10団体が活動している。大田区の総合型地域スポーツクラブは、「おおた地域スポーツクラブネットワーク」を結成し、2か月に1回程度、定例会を開催し、情報交換を行うなど、横のつながりを活かしながら活動をしている。

・資料には、各クラブの名称、活動地域、スポーツ活動種目、文化活動種目、中学校との連携状況を記載している。活動場所として、区内の小中学校、区民センター等の区の施設を主に利用しているクラブが8団体、自前の施設で活動しているクラブが2団体ある。活動種目については、幼児や高齢者

向けのものも含め現在実施しているものをすべて記載している。中学校との連携については、部活動指導員を派遣しているクラブが3つ、中体連のサッカー部員を対象にサッカー教室を行っているクラブが1つある。

- ・資料10は大田区総合型地域スポーツクラブの中学校運動部活動の地域移行に関する受入れ意向等の調査結果である。受け入れの意向については、「積極的に受け入れたい」と回答したクラブが5つ、「どちらかといえば受け入れたい」と回答したクラブが4つ、「受け入れることは考えていない」と回答したクラブが1つあった。補足として、「受け入れたい考えはあるが、場所や道具を自分たちのクラブで用意するとなると難しい」、「シニア向けのプログラムがほとんどなので、中学生の受け入れは難しいが、地域での人脈があるため学校側との調整役等内容によってはできることはあると思う」等の意見があった。

- ・(2)には、競技志向の生徒の受け入れが可能な種目を記載している。一番多いのが、バスケットボールとダンスで5クラブ、続いてサッカーで4クラブとなっている。(3)は、レクリエーション志向の生徒の受け入れが可能な種目を自由記述で回答していただいている。(4)は、受け入れる場合に課題だと思うものを回答していただいております。受け入れの意向を示したすべてのクラブで、「活動資金の確保」と「活動場所の確保」を課題と考えている。その他、指導者や事務員、コーディネーター等人材の確保や学校との連携等、受け入れには協力的であるものの、課題と感ずることが多いという状況にある。

- ・資料11は、現在大田区スポーツ協会に加盟している51団体の一覧となっている。これらの加盟団体は、区民スポーツ大会を実施するなど、各競技・種目について、区内全域で広く普及を図るため活動をしている。

- ・総合型地域スポーツクラブや大田区スポーツ協会加盟団体にどのようにご協力いただくかは、これからの検討になるが、学校部活動の地域移行の受け皿として期待されている地域資源として紹介をさせていただいた。

#### 【委員長】

続いて「(4) 地域連携・地域移行のあり方について」事務局から説明をお願いしたい。

#### 【スポーツ推進課長】

- ・資料12の取組方針(案)については、令和5年度から令和7年度までの改革推進期間における大田区立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する区の方針となっている。

- ・この間に地域連携・地域移行のあり方を検討し、令和7年度末までにその後の区の方針について決定したいと考えている。

- ・1つ目は、検討会を開催し、検討を進めていくこと、2つ目は、今後の円滑な地域移行に向けた事業検証のため、地域資源を活用したモデル事業の実施をすることの2点を進めていきたい。

- ・スケジュールについては、検討会は令和7年度まで随時開催する。また、今年度は取組方針を策定、来年度はモデル事業の実施、令和7年度はモデル事業の検証と今後の方針決定を行っていければと考えている。

#### 【学校支援担当課長】

- ・資料13「部活動地域連携・地域移行のモデル事業概要」について説明する。

- ・令和6年度において、大きく2つのモデル事業の実施を予定している。

・一つ目が、区内に拠点を設け、ダンスチームを発足、外部講師を招いた地域部活動及び発表会を実施するもの、二つ目が、ハイブリッド型地域連携・地域移行の実施として、モデル校を複数設定し、学校部活動の担い手として、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲパターンを併存、組み合わせて配置するものである。

なお、Ⅰパターンとしては休日を委託、平日を校外指導員・教員を図示しているが、休日・平日を合わせて委託とする考え方をできる限り取っていただければとも考えている。

前者は学校部活動から切り離れた地域クラブ活動、いわゆる地域移行に取り組むもので、単独校では困難な特徴的な地域部活動を整備し、生徒の多様な体験機会の場提供に伴う諸課題・効果を検証する。

後者は、実施校の意向や事情に応じて将来的に地域移行、地域クラブ活動化することも含めて実証する可能性はあるが、基本的には学校部活動のまま地域人材などを活用する、いわゆる地域連携に取り組むもので、学校が主体となり地域と連携する学校部活動の地域連携・地域移行に関する諸課題・効果を検証し、今後の本格的な連携・移行のパイロットケースとすべく実施する。

・現在、本事業案については予算調整中のため、詳細な説明は差し控えるが、事業の方向性や内容等についてご承知いただくことと合わせ、本案にて実施することについてご理解いただきたい。

・モデル事業に係る分科会内において、本事業の詳細等についてご意見をいただいたり、事業を進行させる中で見えてくる課題等を提示させていただくことを想定している旨、合わせてご理解いただきたい。

#### 【委員長】

ただいま、取組方針とモデル事業の実施について、事務局から説明があった。こちらはご承認をいただきたい案件だが、ご意見・ご質問等があればお願いしたい。

#### 【委員】

・何について承認を得るのか。方向性の承認なのか、具体的な「こういうパターン」についての承認なのか。

#### 【学校支援担当課長】

・モデル事業に関しては、パターンを含めて図示しているもので承認をいただく方向で考えている。

#### 【委員】

・次の分科会で委嘱する内容なども含まれるのか。

#### 【学校支援担当課長】

・分科会が設定される前提となるが、モデル校選定の考え方や委託事業者の募集方法等を説明させていただき、不足があればご意見をいただき、令和6年度の事業開始の姿を固めていただければと考えている。

#### 【委員】

・モデル事業の概要をもう少し聞きたい。資料13に書いてある、(1)ダンスチームの発足とは、その他の部活ではなくダンスチームを発足させることを一つの事例として進めていくということか。

#### 【学校支援担当課長】

・ダンスチームについて、他の種目ではなく、地域クラブ化として設定するというを考えてい

る。

**【委員】**

- ・将来的には、文化系の部活においても地域連携・移行するという考えなのか。

**【学校支援担当課長】**

- ・学校の状況を引き続き注視しながらとはなる。令和6年度については、委託事業者や部活動指導員を増員させる形で、教員の手から別の担い手に移行させることを軸に考えている。
- ・指導のみではなく、部費の徴収等のマネジメント部分も、先生方の負担になっているものについては、モデル校の状況に合わせて検証していく。

**【委員】**

- ・将来的に、例えば、指導者不足を理由に特定の部活動（ラグビー・天文等）ができないということがあれば、そういった部活動を実施できるような視野が必要になる。

**【委員長】**

- ・地域によって、こどもの数が減っていくということで、合同部活動等になることがあると思われる。
- ・5年後・10年後のことを考えた時に、学校が担当できるものと、学校以外が担当できるもので分ける必要があるのではないかと。

**【委員】**

- ・資料13(1)のダンス部について、区が合同ダンスチームをどういうチームにしていこうかという部分において、各学校にある現在のニーズ（活動日数、指導者、ダンスのタイプ等）、生徒・保護者がどのようなことを望んでいるのか、を聞いてほしい。
- ・区で行う「子どもガーデンパーティー」や地域行事で「ダンスパフォーマンスをしていただけないか」という依頼がよくあるので、年一回の発表会だけではなく、様々な発表の機会を検討してほしい。

**【委員長】**

- ・ダンスというと、来年のパリ・オリンピックから入ってくる「ブレイキン」、昔でいう「ブレイクダンス」というのが子どもたちに大人気で「ストリートスポーツ」ともよばれているが、それをどういう形で入れていくのか「見てもらいたいからダンスする」ということもあるので、そういうことも上手に入れるモデル事業としてほしいと思う。

**【指導企画担当課長】**

- ・ダンスについては、今年度試行的に、10月8日にダンスイベントを開催した。その際に、39名の参加があり、その際はヒップホップを行った。子どもたちのニーズをしっかりと踏まえながら、ダンスチームをやっていきたいと考えている。

**【委員】**

- ・文化部関係の検討はどのようなロードマップでやりたいのかを教えてほしい。

### 【スポーツ推進課長】

・文化部の検討については、後ほど説明させていただく分科会で、複数のテーマを決めて、そのテーマに沿って検討していきたいと考えている。その中で、文化部活動についてどのような形で今後取り組むことができるのかということも1つの検討課題として考えていきたい。

### 【委員長】

・このモデル事業の「ハイブリッド型」のⅠからⅢまでをもう一度説明してほしい。できるだけイメージがわくものでお願いしたい。

### 【学校支援担当課長】

・Ⅰパターンは、委託事業者に指導自体を「外だし」するものとイメージととらえてほしい。民間事業者や総合型地域スポーツクラブの方々等、例えばサッカーとか野球とか種目を決めて業務委託し、その委託先から指導者が派遣されて部活動指導をする。Ⅱパターンは、現状も取っているが、先生が顧問として付きながら、専門的な指導が難しい場合、謝礼金（時給）を払う校外指導員とセットで部活動の指導を担っていただく。

・Ⅲパターンは、会計年度任用職員の部活動指導員というものがあり、こちらは顧問にもなれて、部活動自体を任せようと思えば全て任せられる人材となっている。例えば20部活ある場合、Ⅰパターン目を4種目、Ⅱパターン目を7種目、Ⅲパターン目を9種目、各学校の状況に応じながら差配できればと思っている。

### 【委員】

・最初、この案を事務局から示していただいたとき、大丈夫かな、というのが正直な感想だった。  
・実際、部活動の指導に負担を感じている教員の割合が高い。全く専門性のない部活を任されたのに、親や生徒からは「なんで指導してくれないのか!」と言われる。  
・部活指導員は専門的に指導してくれるので、非常にありがたい。学校としては、このモデルが示される前は、「どんどん部活動指導員を配置して欲しい」というくらいの気持ちだった。  
・地域移行もお願いしたいということであれば、各校でやっているシステムと、民間の運営方法に差異が生じないように、コーディネーターとなる方が必要であると感じる。そのあたりを、来年度実施するモデル校事業で、課題点をどんどん洗い出していただけるとありがたい。

### 【委員】

・部活の地域移行に関しては、運動部の顧問だと、指導の間はつきっきりになってしまう。校長としては、その間目を離さないよう言わざるを得ない。放課後にやるべき、次の日の教材研究とか、その日の授業の振り返りとかはそれ以降になってしまうので、その部分の働き方を考えようというのが一つ目的としてある。  
・こどもや保護者の立場に立ってみると、もっと専門的な指導を受けたいと考えている。ただ、いつからそうなったのか、専門性を学校の部活動にどこまで要求するのかという疑問がある。  
・より専門性を求め、野球やサッカーのクラブチームに通っている子が結構いる。しかし、行った先のチームでは一生懸命やるが、学校では生活態度に問題があるケースがある。学校に勤めている側の人間としては、表で一生懸命やっているのと同じように学校でも普通に生活してくれるとありがたいと思う。  
・地域移行は平成13年頃にも一度話題になったことがある。総合型地域スポーツクラブが立ち上がって、学校の部活動を持ってもらおうという話があった時に、どこを見ても成功しているところはほ



とんどないという苦い経験がある。今回は強い思いで国もやっているんだとは思っているので、いろんな人の思いが同じ方向に動いていかないと、なかなか部活の地域移行は進んでいかないかもしれないと思っている。

#### 【委員】

- ・教育の一環という視点で、チームワークとか、体を動かすという健全な青少年育成という視点が大事ではないか。勝利至上主義に陥るのは、学校の在り方としては違うのではないかと思う。
- ・マイナーなスポーツについても、子どもたちがそういったものに触れる機会があるといい気はする。何のためにモデル事業をやるのかという点を明快にしないとイケない。

#### 【委員長】

- ・スポーツ庁は、教員の仕事にしわ寄せがきているということを重視している。
- ・中学校は発育発達の個人差は大きいし、吹奏楽やペインティングやダンスなどいろいろ試したいという一方で、こどもが少なくなっている。場所も限られていて、生徒の数も限られていて、教員の数もお金も限られていて、どうするのか非常に難問を国が地域に突き付けている。

#### 【委員】

- ・今の中学部活動を全部なくしてしまって、大田区モデルを0から構築するという選択肢も議論の中にあっているのかなと思っている。地域移行をすることによって、指導者がいないのでできなかった部活ができるようになるということも出てくると思う。運動・文化部関わらず、勝利至上主義でない部活が大田区に根付いていき、そこから色んな人材が芽吹いていくというモデルが作れるような議論ができないのかなと思っている。

#### 【委員長】

- ・色んなご意見をいただいたが、こういう取組の方針に関しては了承したということであれば、あとはモデル事業に関してはもっときちんと揉んで、進めさせていただきたいと思うが、いかがか。

#### 【委員】

- ・現場で感じているのは、どれだけ学校の先生方が苦勞しているのかということ。
- ・今回、地域がどれだけ部活動の手伝いできるのかということが、大きなテーマではないかと思っている。
- ・大事だと思うことは、5年・10年先に、学校の運動部活というのがどんな形で推移していくのか、どういうゴール設定がいいのか、モデル校はどのように考えていくべきかなど、大田区の将来的なビジョンを議論していく必要がある。
- ・トライアンドエラーを繰り返しながら、次の問題解決に向けての環境づくりが非常に大事ではないかと思う。
- ・5、10年先のビジョンを考えるにあたり、今はジュニア期（中学校3年間）がフォーカスされているが、地域という立場からすれば、子どもからお年寄りまで安心安全で継続的に良質の指導が受けられる環境づくりが大事ではないか。頭の隅で、先々の地域のスポーツインフラについても考えていくべきということを提案したい。
- ・地域からしてみると、なんで地域がやらなきゃいけないんだという思いもないわけではない。地域を挙げて議論をしたうえで、地域も学校も保護者も子どももいい、という形が一つの理想になるかもしれない。

### 【委員】

- ・部活動がなくなったら中学校はどうなるのかという思いがある。先ほど、「クラブチームでやっている子どもが、学校では生活態度が良くない」という話があったが、もし部活動がなくなったら、そういう子どもが増えるんじゃないかと考える。
- ・今の部活動が持っている意義は何なのかということが、保護者からすれば、取り上げて行って欲しいと思っている。
- ・よく言われるのが、中学校の部活が教育だよというとらえ方をしているということ。海外では、スポーツは余暇というとらえ方で、あまり教育というとらえ方ではない。学校の先生がいる中で、もし吹奏楽含め文化部含めた、これだけ聞ける先生がいるのであれば、部活動がなくなった際の影響を話し合えるのがいいのではないかと思った。

### 【委員長】

- ・システムのパラダイムをがらっと変えてしまうので、これはとても難しい問題だと思う。
- ・例えばドイツの場合だと、学校の部活動はなく、授業が終わり誰もいなくなると、その場所を使ってスポーツクラブが色んなスポーツを指導するというやり方をしている。
- ・場所としての学校の施設というのは非常に重要であり、学校の施設をどう共有していくかということは、教育委員会のマターである。学校の先生は少なくとも17時までは鍵を管理しないといけないので、制度的に難しいものがあるかもしれない。
- ・議論は尽きないが、時間の都合もあるので、取組の方針とモデル事業に関しては、こういう方向で大まかに認めたいということであれば拍手をいただきたい。

(拍手)

### 【委員長】

続いて「(5) モデル事業に係る分科会について」事務局から説明をお願いしたい。

### 【スポーツ推進課長】

- ・モデル事業についてどのように進めていくかということ今年度検討していくということで分科会を立ち上げていきたい。
- ・分科会については、この検討会委員の皆様他に検討にふさわしい方がいれば外部の方もお招きして、より議論を深めていくことができるという仕組みにさせていただいている。
- ・今回のメンバーについては、モデル事業についての検討になるので、区内のスポーツ関係団体、中学校のPTA、中学校校長会の皆様をメンバーとして選定させていただき、議論を進めていければと考えている。
- ・日程については、令和6年1月～2月にかけて、1～2回程度開催する予定。今後、これ以外にも検討させていただきたいテーマも出てきた際には、その都度構成メンバーを決めていくという形をとらせていただければと思っている。

### 【委員長】

分科会の設置について、よろしければ、拍手で承認していただきたい。

(拍手)

**【委員長】**

委員の皆様から、地域連携・地域移行に対するご意見をいただきたい。委員の皆様の思いなど、何でもご自由にご発言いただければ。

**【委員】**

・子どもたちが安全・安心に継続してできる環境づくりが大事だと思う。

**【委員】**

・スポーツ協会では、特定の年代ではなく、赤ちゃんから高齢者まで幅広くターゲットにしている。なぜ中学校の部活動を地域でやるのかという大義は、みなさんと意思疎通していきたい。

**【委員】**

・文化振興協会では、各中学校の少人数の吹奏楽部がなかなか大変だということ、また専門の指導者が少ないということで、大森第十中学校の協力で、複数校の生徒を1か所に集め、専門家の指導のもと、練習を行っている。そして区内の会場で演奏しているところを保護者や地域の方に見ていただくという形でずっと続けている。吹奏楽となると楽器が非常に高いので、学校のご協力でご理解を得てなんとかできている。今年度は3月に発表会があるので、関心のある方はぜひ見に来ていただきたい。

**【委員】**

・モデル事業の考え方は賛成。ただ、大田区は地域ごとに社会構造が違うので、こうした大きいフォーマットも大事だが、各地域ごとのフォーマットをつくることも大事だと思う。

**【委員】**

・学校の部活動であれば、学校の先生が顧問としているので、色んなことが相談できる。また、部活動でできた友達はその後も一生の友達として関係が続いていくという良い面がある。日本におけるクラブ活動と世界のクラブ活動の在り方というのを皆さんで頭の中を整理しながら分科会で議論を進めていけたらと思う。

**【委員】**

・部活動は、中学校選びの基準にもなるため、下手をすると、区外に人が流出してしまいかねない。逆に、今までよりも充実した指導が受けられるようなものが地域であれば、大田区に子育て世帯を呼び寄せられる可能性にもつながると思う。  
・地域連携と地域移行は全く違う概念なので、明確に分けて整理していただきたい。

**【委員】**

・文化振興協会の方ですでに文化系をやっているようなので、このモデル事業の参考になると思う。

**【委員】**

・地域連携で青少年対策地区委員会に手を貸して欲しいとか、人を紹介して欲しいなどのご要望があればぜひ。

**【委員】**

・対処療法的な対策ではなく、文化系も運動系も含めて、他区からも人を呼び込めるような大田モデルができるといいと思う。

**【委員】**

・地域に指導者がどれだけいるのかということも気になる。そうした情報が提供できるのであれば提供していきたい。

**【委員】**

・中学生のことをこれだけ手厚く考えていただけてありがたい。  
・部活動は、今と昔では状況が異なっている。新しい仕組みの中で、新たな意味で部活動を振興していけるとよいと思う。

**【委員】**

・部活動には、こどもの健全育成や居場所づくりという要素がある。こどもたちが参加しやすい形をつくっていったらと思う。

**【委員】**

・地域も学校もお互いにWIN-WINの関係ができれば素晴らしいと思う。

**【委員】**

・教員の働き方改革という面もあるが、「こどもたちのために」ということも忘れてはいけない。  
・平日と休日を切り離すのはなかなか難しいと思う。平日も休日も一緒に考えて、どういう指導者が受け持っていくのかということも考えていくのがよいと思う。

**【委員】**

・大森三中はコミュニティスクールに指定されており、学校運営協議会に料理部を移行している。  
・お金の問題も発生してくると思うので、今後はその話題もできればと思う。

**【委員】**

・やりたい部活動があるのに、顧問がいらないからできないという現状もある。  
・持続可能な部活動をやっていくという点で地域の力が必要になると思う。

**【委員】**

・他の自治体の参考になるような取組ができるとよいと思う。

**【委員】**

・地域は人材の宝庫なので、地域の人や大学生を指導者として視野に入れられるとよいと思う。  
・必ずしも校内でやらなくてもいいのでは。こどもたちが幅広く色んなことにチャレンジできる機会があるとよいと思う。